



ひすい

糸魚川市立ひすいの里総合学校

学校だより 10月号 (No. 12)

令和3年10月27日発行

みんな輝く“ひすいの文化祭”



“ひすい”
発表会

10月16日(土)、心配していた天気も雨が落ちることなく、時間の経過と共に空が明るくなっていきました。“ひすいっ子の行事は天候に恵まれる”は、この文化祭でも顕在でした。今年も新型コロナウイルス感染防止のため、小学部と中学部の発表会はセパレート方式で時差を設け、観客数を制限して実施させていただきました。また、体育館入口では検温による健康チェックと手指消毒、マスク着用による飛沫対策にもご協力いただき、ありがとうございました。

さて、今年のひすいの里総合学校「文化祭」〈ひすい発表会・ひすいの里作品展(～25日)〉はいかがでしたでしょうか。子どもたちは、多くの人の前に立つという緊張感はありましたが、文化祭までの学びを、自信をもって発表することができたと思います。

小学部は、ふるさと糸魚川ジオパーク学習の「海」をテーマとした発表内容でした。トーンチャイムによる「海」の演奏。さざ波が打ち寄せる音を手作りの楽器で表したり、「エビカニクス」「うみのぼうけんたい」ではリズムに合わせて音を鳴らしたり踊ったり歌ったり。ラストは「ひょっこりひょうたん島」の曲に乗っての楽しいダンス・パフォーマンスを披露しました。元気100%の楽しさが伝わってくる発表でした。



中学部は、国語と音楽をベースにした発表内容でした。一人一役で、スライドに合わせた「桃太郎」の朗読に楽器などを使った効果音を入れ、1コマ1コマが印象的に表現されていました。生徒全員で創り上げた「桃太郎」でした。「カノン」は、トーンチャイム、ツリーチャイム、小太鼓などの打楽器を使い、しっとりと落ち着いたメロディーを奏でました。最後は「虹」をパネルシアターで情景を表しながら手話を交えて歌いました。一人一人が役割を果たし、中学部生らしさを発揮した、まとまりのある発表でした。



<ひすいの里作品展>



ひすいの里作品展は、「ひすいホール」と「わひわひ広場」（糸小・ひすい児童生徒玄関）に展示されました。個々の子どもたちの思いや個性が様々な色や形、素材で表現された見応えのあるものでした。

小学部は、絵画「自由画」と立体作品「うみからのメッセージ」、中学部は、絵画「自由画」と立体作品「私の木」でした。「自由画」は、人物画あり、風景画あり、デザインありで、全校26人の子どもたちそれぞれがのびのびと描いた個性溢れる作品でした。小学部の立体作品は、海から流れ着いた木やプラスチックなどを、素材の種類や大きさ、配置などを工夫して枠に貼り、変化のある面白い作品でした。中学部の「私の木」は、木の皮をむいたり針金を曲げたりするなどの技能を必要とする制作工程を経て、セロファンやビー玉が付けられていたカラフルな作品でした。作品を観ていると、制作している子どもたちの真剣なまなざしや完成を喜ぶ笑顔も思い浮かび、作品に込められた想い+αを感じました。



<作業製品販売会>

文化祭に合わせて、中学部の作業製品販売も行いました。生徒は宣伝係、販売係、会計係などの役割に分かれて販売活動に取り組みました。生徒が日々の作業学習で作ってきた「さきおり」、大事に育ててきた大根やさつまいもを商品として並べました。どれも好評で、短時間で売り切れとなりました。人とのコミュニケーションなど、多くの学びがありました。